

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
〒602-8048 京都市上京区下立売通
小川東入ル
中西印刷株式会社（日本産業衛生学
会近畿地方会事務局支局）
発行責任者 中西一郎（地方会長）
<http://jsoh-kinki.jp>

第 61 回近畿産業衛生学会

新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、本学会はオンライン開催となりました。
事前参加済みの方々については、改めて、事務局よりご連絡致します。
ご理解の程、よろしくお願い致します。

- | | |
|---------|--|
| 主 催 | 日本産業衛生学会 近畿地方会 |
| 共 催 | 大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センター |
| 後 援 | 関西産研（関西産業健康管理研究協議会） |
| 学 会 長 | 伊藤 正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター） |
| 日 時 | 2021 年 10 月 23 日（土） 12：20～17：20 |
| 開 催 方 法 | オンライン開催（Zoom ウェビナー） |
| 参 加 方 法 | 必ずホームページより、事前申し込みをお願い致します。（締切：10 月 15 日）
学会ホームページ https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-61/
事前申し込みをされた方に、学会開催数日前までに事務局より視聴 URL をご案内させていただきます。 |
| 会 費 | 学会員：無料、大学院生・学生：無料
非学会員：1000 円
※会費納入方法については、申し込み時にご案内させていただきます。 |
| テ ー マ | 大変革期の産業保健～ with コロナ時代の将来展望～ |
| 教 育 講 演 | 12：30～13：50
「快適なテレワークのために～作業管理と作業環境管理を中心に～」
座 長：相羽 洋子（大阪青山大学 健康科学部 教授）
演 者：辻村 裕次（滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学部門 助教） |
| 基 調 講 演 | 14：00～15：00
「コロナ時代の職域における循環器病疾患の管理」
座 長：西田 和彦（長谷エクリニック）
演 者：坂田 泰史（大阪大学 医学部 循環器内科 教授） |
| シンポジウム | 15：10～17：10
「コロナ禍での職域における生活習慣病対策」
座 長：伊藤 正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター）
鈴木 純子（大阪産業保健総合支援センター）
専属産業医の立場：西田 和彦（長谷エクリニック）
精検医の立場：吉田 直樹（パナソニック健康保険組合健康管理センター生活習慣病科）
歯科医の立場：安田 恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学）
看護職の立場：天野 和代（株式会社ダイセル） |
| 一 般 演 題 | オンデマンド配信（詳細はホームページでお知らせします） |
| ホームページ | https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-61/ |





学会開催のご挨拶

学会長 伊藤 正人

(パナソニック健康保険組合健康管理センター)

近畿産業衛生学会は日本産業衛生学会近畿地方会が主催し、1963年の第1回から数えて60年近く続いている歴史ある年次学術集会です。この度、第61回の学会長の大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

さて、第61回は令和3年10月23日(土)に北摂に位置するパナソニック健康保険組合の保養施設であるパナソニックリゾート大阪で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、残念ながら、オンライン開催となりました。

プログラムについては、一部変更となり、教育講演、基調講演、メインシンポジウムをオンラインで開催し、一般演題については、オンデマンド配信を予定しております。詳細は、ホームページをご覧ください。

今回のテーマですが、「大変革期の産業保健～withコロナ時代の将来展望～」とさせて頂きました。

産業保健においては、時代の変遷により、ターゲットとすべき健康障害要因が大きく変化し、例えば職業性疾

患対策から、昨今の生活習慣病やメンタルヘルス対策へと変わっていったことは、ご周知のことと思います。一昨年末からの新型コロナウイルスの拡大をきっかけに、在宅勤務などの働き方改革が浸透しつつあります。集団での対面活動はもはや実施しにくくなり、産業保健活動の在り方や仕組み自体も根底から改変される可能性も出てきております。しかし、どのように変化しても、産業保健の「原点」とも言えるコアコンピタンスは変わらないと考えています。つまり、取り巻く状況が変化しても「労働と健康を調和するように支援すること」が重要と考えています。既にさまざまな切り口で新型コロナ禍における産業保健の課題や対策が模索されていますが、将来展望も交え広く議論したいと考えておりますので、ご参集各位が未来志向で討論を繰り広げられることを期待しております。

多数の皆様のご参加を祈願しております。

第61回近畿産業衛生学会プログラム

開会挨拶 12:20～12:30

教育講演 12:30～13:50

「快適なテレワークのために～作業管理と作業環境管理を中心に～」

座長：相羽 洋子（大阪青山大学 健康科学部 教授）
演者：辻村 裕次（滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学部門 助教）

基調講演 14:00～15:00

「コロナ時代の職域における循環器病疾患の管理」

座長：西田 和彦（長谷工クリニック）
演者：坂田 泰史（大阪大学 医学部 循環器内科 教授）

シンポジウム 15:10～17:10

「コロナ禍での職域における生活習慣病対策」

座長：伊藤 正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター）
鈴木 純子（大阪産業保健総合支援センター）

専属産業医の立場：西田 和彦（長谷工クリニック）
精検医の立場：吉田 直樹（パナソニック健康保険組合健康管理センター生活習慣病科）
歯科医の立場：安田 恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学）
看護職の立場：天野 和代（株式会社ダイセル）

閉会挨拶 17:10～17:20

一般演題 後日、オンデマンド配信予定

※詳細はホームページでお知らせします

1) コロナ禍・在宅・遠隔産業保健

(101) コロナ禍における遠隔職場環境改善の試み～オンライン AI の効果～

福田 郁巳（オムロンエキスパートリンク（株））他
(102) 健康診断結果で見た在宅勤者の健康影響について～当室の健康支援における妥当性の検討～

黒木 裕子（パナソニック（株）CNS 社北浜健康管理室）他

(103) ワンチャンスを逃さない！リモート時代に繋げる、ハイブリッド型健診

尾崎 利美（パナソニック（株）本社健康管理室）他

(104) COVID-19 流行下の産業保健活動について考える
～看護職間の連携を活かして～

金澤 翔子（パナソニック健康保険組合 健康管理センター 保健看護部）他

(105) 新型コロナウイルスパンデミックの定期健診結果への影響調査 Vol.1（生活習慣等）

山本 裕美（一般財団法人 近畿健康管理センター）他

(106) 新型コロナウイルスパンデミックの定期健診結果への影響調査 Vol.2（検査等データ）

森 裕子（一般財団法人 近畿健康管理センター）他

(107) 特定保健指導におけるオンデマンド研修会への試み
山下 紘見（一般財団法人 日本予防医学協会）他

2) 生活習慣病・がん

(201) Flash Glucose monitoring プログラムの糖尿病改善効果について

佐々木 香純（パナソニック（株）OBP パナソニックタワー LS 社健康管理室）他

(202) Flash Glucose monitoring プログラムにより安定した血糖管理が得られた 3 例について

千福 恵子（パナソニック（株）OBP パナソニックタワー LS 社健康管理室）他

(203) Flash Glucose monitoring プログラムを用いた特定保健指導について

佐々木 香純（パナソニック（株）OBP パナソニックタワー LS 社健康管理室）他

(204) Flash Glucose monitoring プログラムを活用した医療連携の可能性について

千福 恵子（パナソニック（株）OBP パナソニックタワー LS 社健康管理室）他

(205) 簡単！ロカボチャレンジダイエット

名井 美佐子（パナソニックコンシューマーマーケティング（株）健康管理室）他

(206) 職域胃がん検診の H.pylori 抗体検査追加による費用対効果の評価（マルコフモデル）

中谷 素子（パナソニック（株）アプライアンス社奈良健康管理室）他

(207) 定期健康診断「4 項目異常者（肥満・血圧・血糖・脂質）」と「4 項目異常でない者」の生活習慣の比較について

佐藤 由季（パナソニック健保 健康管理センター 生活習慣病科）他

(208) 自営業者におけるがん診断初期の仕事の継続に関する要因

向 友代（和歌山県立医科大学附属病院）他

3) メンタルヘルス

(301) 職業性ストレス簡易調査票におけるストレス反応 6 尺度の細分化と深化過程の検討

倉谷 昂志（一般財団法人 京都工場保健会）他

(302) 仕事における自記式パフォーマンスとストレスチェックとの関連

天野 芳子（パナソニック（株）CNS 社京橋健康管理室）他

(303) 急性期病院のメンタルヘルス対策 ～介入後の効果～ 第二報

桂 久子（社会医療法人 製鉄記念広畑病院）他

(304) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う高等教育機関における職業性ストレスの質的变化について

弓削 久子（京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門）他

(305) 職域における高ストレス者の subjective job stress と objective job stress の乖離について自記式調査票の有用性と限界に関する探索的検討

阪上 優（京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門）他

4) 産業衛生

(401) 尿中マンガンについての検討

本迫 郷宏（パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター 労働保健部）他

(402) 溶接ヒュームの改善措置

横山 和也（パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター 環境衛生部）他

(403) ヘッドスペース・ガスクロマトグラフ（HS-GC）法による尿中アセトン、メタノール、メチルエチルケトン（MEK）およびメチルイソブチルケトン（MIBK）の同時定量分析

才本 麻矢（パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター 環境衛生部）他

(404) 労働衛生検査用混合標準液の開発

平野 眞由美（中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター）他

5) 活動報告・教育他

(501) 学会員の学会発表に関する意識と課題について（案）～近畿地方会 若手活性化プロジェクト アンケート調査より～

藤吉 奈央子（Harmony ～Life & Work～）他

(502) ICT を活用した健康づくり活動の効果検討

佐々木 紗也（パナソニック（株）US 社住之江健康管理室）他

(503) 新入産業看護職オンライン研修の試み～COVID-19 への対応を契機に～

吉村 明子（パナソニック健康保険組合 健康管理センター 保健看護部）他

(504) 歯科医師の労働衛生コンサルタント活動報告（第 2 報）

清川 虎之進（大阪歯科労働衛生コンサルタント協議会）他

(505) 和歌山県における疾病を抱える労働者の治療と仕事の両立支援の実態

森岡 郁晴（和歌山県産業保健総合支援センター）他

第 61 回近畿産業衛生学会開催要項

1. 開催方法

オンライン開催 (Zoom ウェビナー)

2. 申込方法

必ずホームページより、事前申し込みをお願い致します。
(締切: 10 月 15 日)

学会ホームページ <https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-61/>

事前申し込みをされた方に、学会開催数日前までに事務局より視聴 URL をご案内させていただきます。

3. 参加費

学会員: 無料、大学院生・学生: 無料

非学会員: 1000 円

※会費納入方法については、申し込み時にご案内させていただきます。

4. 演題申込・問い合わせ先

第 61 回近畿産業衛生学会 学会事務局

パナソニック健康保険組合健康管理センター

〒570-8540 大阪府守口市市外島町5番55号

担当 宮川 清美

Eメール: kinki61@k-ohcf.com

5. 実行委員

学会長: 伊藤 正人 (パナソニック健康保険組合健康管理センター)

事務局長: 深井 恭佑 (㈱リードウェル)

顧問: 圓藤 吟史 (中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター)

顧問: 廣部 一彦 (関西産研会長)

顧問: 林 朝茂 (大阪府医師会産業保健担当理事)

(五十音順)

黒木 和志郎 (パナソニック㈱ CNS 京橋健康管理室)

鮫島 真理子 (兵庫産業保健総合支援センター)

鈴木 純子 (大阪産業保健総合支援センター)

津田 恵理 (パナソニック㈱本社健康管理室)

津田 由紀 (パナソニック健康保険組合健康管理センター)

中井 栄 (パナソニック健康保険組合健康開発センター)

長見 まき子 (関西福祉大学健康科学科)

西田 和彦 (長谷工クリニック)

橋口 克頼 (パナソニック健康保険組合健康管理センター)

平田 真以子 (㈱クボタ人事部健康管理室)

藤田 周弥 (さんぽワークス株式会社)

森 雅子 (みずほ健康保険組合 大阪健康開発センター)

第 10 回研究室訪問のご報告 ～若手活性化プロジェクト～

岩根 幹能 (日本製鉄関西製鉄所 / NS メディカル・ヘルスケアサービス)

2017 年に「大学・部会・研究会の連携プロジェクト」が組織され、研究室訪問がスタートしました。若手研究者同士が刺激し合い、他の研究者の智慧や発想を自らの研究に活かすことが目的でしたが、当初は若手というよりバリバリの研究者同士の交流になっていました。もっと若手にスポットを当てたいという思いから「若手活性化プロジェクト」に変わったのですが、研究室訪問は回を重ねるごとに活況を呈し、前回は ICT によって若手参加の敷居が下がった感もあって、このまま継続することとなりました。

第 10 回目の研究室訪問は和歌山県立医科大学衛生学教室にお願いし、8 月 4 日 Zoom 開催でした。藤吉朗教授は NIPPON DATA をはじめとした循環器疾患予防の疫学研究に携わってこれ、その成果は各種ガイドラインに引用されています。産業保健職が興味を持つ分野の話が聞けるとあって、約 40 人が参加しました。

藤吉教授の講演では、滋賀県は男性の平均寿命が全国トップである一方、同じ近畿なのに和歌山県はワースト 4 位であり、その要因として高血圧有病率が強く影響している可能性を指摘されました。また、新型タバコに関する 53 論文の系統レビューで、タバコ会社が関与していない論文では 17 本中 7 本のみが新型タバコが紙巻タバコより望ましいと論じているのに対し、関与している論文では 36 本中 35 本で新型タバコが望ましいとしており、利益相反をつまびらかにされました。これを医学部生が学会発表したというのは驚きでした。いずれの研究

も「疫学は真理を映し出す」ことが印象的でした。

東山綾准教授はより若年期からの血圧コントロールが重要で、肥満に加えて尿中 Na/K 比が高い (食塩過剰 + カリウム不足) と高血圧になりやすく、ナト・カリしょうゆ[®]などの利用を紹介されました。大学院生の青野直輝先生は、誰でもアクセス可能な NDB open data (厚労省 HP 参照) というビッグデータを解析し、和歌山県は男女とも全年齢層において高血圧、脂質異常症 (LDL-コレステロール ≥ 140 mg/dl) が全国平均より多く、これらが和歌山県で虚血性心疾患死亡が多い一因ではないかと考察されました。鈴木春満助教は有名なフラミンガム・スタディとの共同研究で冠動脈石灰化と大脳白質微小構造変化に関連があるとの報告をされました。研究成果もさることながら、疫学研究はデータ収集から関わることの重要性や米国研究者とのやりとりの苦勞を述べられたのが印象的でした。

藤吉教授のまとめでは、論文を書くことは時に苦痛を伴うが、研究の意義や面白さを多くの人に伝えたいという情熱がそれを乗り越える糧となること、そのためには普段から様々な人と対話を重ねる場や時間を持つことが重要と述べられました。産業保健職は大学研究室のように対話機会が豊富ではありませんので学会は貴重な交流の場です。ICT 会議は便利ですがお互いの顔が見えず関係構築は期待したい短所があります。コロナ後は対面して議論を重ね、人間関係も深めていけることが近畿地方会に期待されているものではないかと感じました。

第 94 回日本産業衛生学会の報告

「第94回日本産業衛生学会へ参加して」

近畿大学医学部
環境医学・行動科学教室

東 賢一



第 94 回日本産業衛生学会は、信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室教授の野見山哲生企画運営委員長のもと、令和 3 年 5 月 18 日（火）～ 21 日（金）の間、長野県松本市内で開催されました。2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行拡大を受け、昨年開催された第 93 回日本産業衛生学会は誌上開催・Web 開催となり、開催予定地であった旭川市での実地開催はありませんでした。2020 年度に開催された大半の学会が同様に誌上開催または Web 開催の措置をとりました。

COVID-19 の流行は、その後、拡大と縮小を繰り返し、複数の変異株も出現しました。令和 3 年の初頭、日本ではワクチンの普及が遅れ、3 月末から流行の第 4 波が起り、4 月 25 日から 5 月 16 日に掛けて 9 つの都道府県で緊急事態宣言が発令されました。5 月 23 日には沖縄県でも緊急事態宣言が発令されました。

第 94 回日本産業衛生学会は、現地開催が予定されていましたが、このような状況の変化に伴い、開会式と総会、表彰式、基調講演、特別講演、各シンポジウム、教育講演、各部会等が現地開催と Live 配信のハイブリッド形式となり、5 月 24 日（月）正午～ 6 月 25 日（金）の間、オンデマンドで配信されました。一般演題の発表は、口頭発表は Live 配信、ポスター発表はオンデマンドで配信されました。現地参加が困難な参加者への配慮、参加人数の制限や感染予防を実施しながら対面でのコミュニケーションをできる限り実現するようプログラムを工夫するなど、細部に至るまで配慮がなされた素晴らしい学会でした。

私は現地参加の予定でしたが、現地開催期間中に大阪府で緊急事態宣言が発令されていたことから、オンライン参加に変更して 4 日間の Live 配信に参加いたしました。COVID-19 がパンデミックとなってからまだ 1 年程度にも関わらず、シンポジウムや一般演題において、毎日、COVID-19 に関わる講演や発表がありました。

COVID-19 は、職域での感染や、職域における医療従事者の産業保健活動など、本学会が有する役割と大きく関わります。本学会では、感染症対策、診療体制、メンタルヘルス、働き方の変化、ウイルスの拡散予測とマスクの効果など、興味深い数多くの講演や発表がありました。おそらくこの状況は、次年度以降もしばらく続くと思われます。また、私がその他で注目したのは、職域における近未来の化学物質管理に関するシンポジウムでした。事業者に対する化学物質の自律管理がより一層求められるようになり、法規の改正も検討されています。産業衛生技術部会には、現場で化学物質管理に携わる技術系専門家の育成が求められると考えられています。

第 94 回日本産業衛生学会の報告

「初めての産業衛生学会 学術総会に参加して」

積水化学工業（株）
人事部・健康推進室

竹島 愛美



念願の産業保健の分野に入り、初めての産業衛生学会に参加いたしました。今回は「在宅勤務が従業員に与える影響からみた上司のマネジメント要素の評価」というテーマでオンライン口演を行いました。本発表に向けご支援・ご協力をいただいた皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

このテーマは、緊急事態宣言の発令により、本人の意思とは関係なく行う在宅勤務は従業員のパフォーマンスや心身にどのような影響をもたらすのか、また影響する要因の具体的な状況を把握することを目的としました。調査からは労働生産性の低下やコミュニケーション不足、運動不足、仕事の進捗の遅れなどが明らかになるほか、在宅勤務下では上司の支援がストレスやメンタルヘルス、エンゲージメントに影響することもわかりました。上司の支援状況については追加調査を行い、その結果をもとに、現在は管理監督者向けのメンタルヘルス必須研修を展開しております。私は学生時代の研究がきっかけで、集団の傾向を把握しアプローチを検討することの面白さを知りました。当時は学生という立場で、得られた示唆を現場で活用することは叶いませんでしたが、今は人事部の産業保健職としてグループ全体を対象とした施策展開に繋げられることを嬉しく思っております。今後とも従業員の Well-Being に寄与する施策や研究を進められるよう精進いたします。

オンライン口演も初めての経験でしたが、ご質問もいただき、現地参加と遜色なく参加でき、遠隔で全日参加が可能となったことも有難かったです。一方で、先生方との意見交換の機会や、会場で意図せず目や耳に飛び込んできた情報によって新たな思考やアイデアが生まれるといった、現地参加での醍醐味が味わえなかったことは少し寂しく感じました。今後もニューノーマルな日常が続きますが、直接もしくは画面越しで皆様とお会いできる日を楽しみにしております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の声



産業歯科保健部会設立に向けて

大阪歯科大学 口腔衛生学講座

安田 恵理子

平素より産業衛生学会近畿地方会の皆様にはお世話になり、感謝申し上げます。

産業衛生学会は、産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会はじめ、産業歯科保健部会の全国の歯科関係の皆様とも交流し学ばせていただいていることから、歯科臨床だけではなく広い視野を持ち、産業衛生の範疇で歯科が出来ることは何か、研鑽させていただいております。が、近畿地方会にだけ産業歯科保健部会がまだ設立されていない為、多くの方から切望されておりました。近畿には長年、産業歯科保健で御活躍されている先生方がおられ、そのうち一つの団体である大阪歯科労働衛生コンサルタント協議会は労働衛生コンサルタントとして30年近く活動し、毎年研修会等で研鑽を積んでおります。本年度の代議員選挙では、歯科として初めて6名が

選出され、幹事に安田恵理子が拝命されましたことを契機に、部会設立への気運が高まって参りました。今までの活動実績を踏まえ、来年度の設立に向けて準備を進めていくことを、中西会長はじめ幹事の皆様から、幹事会にて御承認いただきました。

本年度は9月18日（土）にドーンセンターにおいて、研修会を開催致します（8月現在）。令和2年12月に労働安全衛生規則第48条の徹底の通達が出たことを受け、大阪歯科労働衛生コンサルタント協議会会員の津田康博氏に「歯科特殊健康診断の実際」と題して講演いただきます。産業保健に関わる皆様に共有していただき、産業歯科についての意見交換も出来る良い機会となることと思われまふ。

来る第61回近畿産業衛生学会では、一般演題発表、シンポジウムで、歯科として初めて参画させていただきます。令和2年3月のTHP指針改正により、健康増進への歯科の関わりが更に求められるようになる中、産業保健での連携を展開して参りたいと存じます。その礎としても、近畿産業衛生学会歯科保健部会設立に向けて、御指導御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。



職域接種、ブースター接種も見据えて

りそなグループ 関西みらい銀行

北川 めぐみ

今年の4月に製造業から銀行の産業医へ転職しました。早く慣れようとしていた、その矢先にCOVID-19ワクチンの職域接種の話が急に持ち上がりました。ご多分にもれず、だと思ひますが慎重派と賛成派で実施可否の議論がありつつ、弊社でも職域接種を行うという方針に落ち着きました。ちなみに小職は職域接種の実施に賛成派でした。産業保健職へ求められているニーズにわかりやすく応えられますし、COVID-19感染後の復職面談に時間を割くより、予防のために時間をかけた方が建設的だと思ひからです。

職域接種を行うと決まっからは従業員の接種希望を確認して接種規模の確定、国への申請、接種者への通知、接種会場の運営方法についてなど計画がどんどん進んでいきました。実際に小職が携わったのは接種会場の運営のごく一部ですが、準備が着々と進み、接種初日が

迫る中、ワクチンが不足していて申請した数量は届かないかもしれない、と氣を揉む日々を経ましたが、接種開始にこぎつけました。

接種用に送られてくるシリンジが使いづらく、別途購入する必要があったり、生後初めての予防接種で死にかけたので50年以上、予防接種は受けたことがないという方の接種可否の判断を迫られたり、接種後の副反応かもしれないという様々な（謎の）症状の問い合わせへの対応などいろいろなことがありました。また、予診の際に「熱がでるとわかっていて注射を打つのは初めてだ」と言われ、「それもそうだな」と思ったのも印象的です。今回の職域接種は産業医としての顔が早々に売れ、会社からの信頼を得ることができた、いい機会だったようにも感じてうれしい誤算です。

本原稿執筆時の8月下旬時点ではすでに、ブースター接種の必要性についても言われていますが、まずはエビデンを使用せずに現行の接種日程が無事に終えられるよう、祈りながら笑顔で予診を続けていきます！そうすれば3回目接種の要請があっても「わが社」のために動じずに対応できると思ひます。

第 69 回近畿地方会学術集会講演会報告

「第 69 回近畿地方会学術集会講演会を視聴して」

さんぽワークス株式会社

藤田 周弥



特別講演①「最近の労働衛生関係政省令の改正について：法令から見たコロナ禍での産業保健の注意点」では、大阪労働局労働基準部 健康課長 吉田泰彦先生より、石綿障害予防規則、特定化学物質障害予防規則、電離放射線障害防止規則の改正を中心に説明頂きました。特に石綿対策では、工事開始前の石綿の有無の調査方法が明確化されたことをはじめ、計画届の提出範囲の拡大やその他の規制内容に関して改正事項は多岐に渡っていました。現在では、石綿含有製品の輸入や製造、使用等がほぼ全面的に禁止されていますが、今後、過去に石綿が使用された建築物の改修や解体が増えると予想されるなかで、作業者が工事に伴い飛散する石綿にばく露することを防ぐためにも、今回の改正はぜひ押さえておくべきものと改めて感じました。

特別講演②「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイドの現場への展開について」では、執筆者の一人であるアッシュコンサルティングサービス合同会社代表 鈴木英孝先生より、感染症の基礎知識、新型コロナウイルス感染症、変異株、職域における対策の概要、職域におけるワクチン接種などに関して、国内外の最新の知見や各種データをもとに幅広く説明頂きました。特に、職域におけるワクチン接種に関しては、直前のタイミングだったこともあり、Q&A 形式による解説は多くの参加者にとって実践的な内容だったと思われました。最後に「職域における感染症対策」のあり方についてご紹介頂きました。まず一般感染症対策として対応の基準やマニュアルを作成し足元を固め、実際に発生する事例への対応を通じて仕組みを応用し改善する、ここまですべてを平時の段階で積み重ねておくことで、次のステップである新興感染症によるパンデミック対策につなげることができるとのことでした。

今回の特別講演はいずれも時宜に合った内容に富んでおり大変有意義な機会となりました。

第1回日本産業衛生学会産業看護部会学術集会報告

「第 1 回日本産業衛生学会産業看護部会学術集会に参加して」

パナソニック（株）

IS 社大東・健康管理室

中西 真粧美



今回の学術集会は、産業看護部会で開催される初めての大会で、専門家制度ができてから、ひとつの節目を迎えるにあたり、産業保健看護分野で求められているプロフェッショナルリズムを考え、この分野の未来を創造していく機会とすることがテーマとなっていました。

メインシンポジウムでは、1. 個人だけでなく、労働環境も含めた集団、組織への健康支援から労働生産性をあげていく、BCP（事業継続計画）にも関与する時代になったこと、2. 産業保健看護分野の職種のプロフェッショナル確立に必要な要素に、専門職集団としてのアイデンティティが重要であること、3. 産業保健看護の活動の重要性が理解され促進されるために、個人との直接対話など最前線でリアルタイムに情報を把握できる強みを活かし、企業経営において、労働者と会社の経営をつなぐ能力を高めていくこと、等の提言を保健看護や産業医、事業者の多方面からご提言をいただきました。

また、特別対談や教育講演として、エンターテインメント分野や研究開発分野の第一線でご活躍されている方々からは、人を動かすためのマーケティングやプロモーション、長期にわたるミッション（プロジェクト）で成長していくチーム作りやチームマネジメントといった、産業保健看護活動推進のヒントになる話題をご提供いただきました。

最後の各会場別のワークショップでは、三社三様のアプローチから従業員自らが考え行動するための自律的健康支援が紹介されていました。

教育講演（はやぶさ2）をはじめ、印象に残ったことは沢山ありましたが、全体を通して複数の方に共通していたキーワードに、「同じ目線」「共感」「情報の共有」「継続」「環境（整備）」「自律性」「研鑽」がありました。

現在、産業看護部会において、「産業保健看護」の新定義が検討されているとのこと。この分野に携わる私たちが目標を共有し、お互いに研鑽できる（していく）環境のひとつとして、看護部会の存在は大きいとあらためて感じました。

シリーズ

自己紹介

私たちの職場 (45)

～コロナ禍における産業保健活動について～

住友電設 (株)・健康管理室
保健師 喜多岡 蓮美

当社は大阪市西区に本社を構え、国内に 17 拠点、海外に 7 拠点の事業場を持つ総合設備業の会社です。社員数は約 1,700 人で、関連会社約 3,500 人と協力し、電気という社会インフラの多彩な分野でエンジニアリングなどの事業に取り組んでいます。2020 年 4 月に創立 70 周年を迎えるにあたり、当社事業を支える全ての人々が生き生きと活躍することを支援すべく、2019 年 3 月に健康管理室が新設されました。産業保健スタッフは、常勤保健師 1 名、非常勤産業医等 5 名、衛生管理者・メンタルヘルス推進担当者を含む事務スタッフ 3 名でスタートし、現在はさらに 2 名の保健師が加わって活動しています。

当社の事業は公共性が高いものが多く、緊急事態宣言下でも事業継続が要求されます。建設業は、多重下請構造のもと複雑な施工体制と非常に多くの工程が連続し、各プロセスで専門的な知識やスキルが要求されます。一人でも欠員が出ると残る社員の負荷を大幅に上げることになるため、新型コロナウイルス対策では、罹患者だけでなく濃厚接触者をいかに減らすかが重要です。

コロナ対策本部のアドバイザーとして、全社基準となる対応マニュアル、対策実施フロー、報告書フォーマットを作成しました。マニュアルを使用する中でさまざまな個別の質問があり、その都度マニュアル改訂を重ねました。陽性者が発生した際は、濃厚接触者を含む関係者とやりとりしながら情報整理し、現場の規模や特殊性を踏まえた個別対応、関連会社との対応、各管轄における保健所とも情報共有しました（感染拡大地域の保健所とのやりとりは大変でした）。さらには、入院の準備指導、待機場所（賃貸契約）確保、自宅療養者の支援、同居家族のフォローを行っています。第 5 波に入ってから、保健所から PCR 陽性者への連絡が最長 3 日かかっており、独自でパルスオキシメーターや家庭用酸素吸入器を手配しています。また、海外赴任者が感染した際には、外務省、厚労省、空港検疫、受け入れ病院と連携して何とか帰国にこぎつけたような経験をしました。

コロナ禍のストレス対策について触れたいと思います。ゼネコンによる建設工事など前工程の進捗が遅れても竣工日は変更できないため、後に続く電気工事は必死です。こんな時にはなりふり構ってられず、感情的なやり取りになることもあります。飲みにケーションはこ



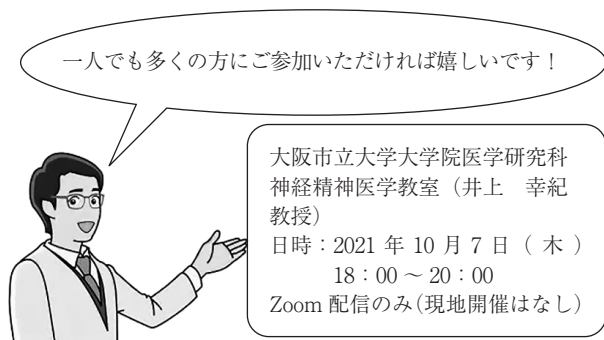
住友電設 (株) 健康管理室スタッフのメンバーおよび人事課長
筆者は前列真ん中

のようなキズを癒す効果がありましたが、コロナ禍でそれがなくなり、心のキズだけが積み重なっていくのではないかと心配です。このような状況下、関西福祉科学大学との共同研究でコロナ禍におけるストレスと対処法に関する調査を実施しました。ストレス状況下における対処方法として「調整型セルフコントロール」と「改良型セルフコントロール」という概念があります。前者はストレッサーによって妨害を受けた機能の回復を求めて実行するもので、後者は習慣的な行動を新しくより望ましい行動へと変容させるためのものです。改良型セルフコントロールには満足が遅延が伴うため、遅延によって発生する欲求不満やストレス事態に上手く対処する必要があります。調査の結果、コロナ禍のストレスには、改良型セルフコントロールが問題解決への自信を高めるという示唆が得られました。この結果をもとに、特に若手社員の支援のためにはポジティブなフィードバックや相談・助言などのサポートによって満足が遅延を補ってもらう必要があると考えました。マスクで互いの表情が見えない中、今まで以上に「言葉に出して褒める・認める」ことの重要性を念頭に、ラインケア・セルフケア教育を行っています。

健康管理室開設当初は、唯一の医療職として奮闘していましたが、自己流な対応方法にならないように会社や社員の期待に応えられる産業保健職を目指して、学会、研修会や事例検討会など多職種連携の機会に積極的に参加しています。また、大学院保健学研究科の院生の実習やインターンシップ等積極的に受け入れることで物事の本質を見抜く能力やひとつの経験から多くのことを学び、合理的に業務を遂行できるようコンセプトチャールスキルを高めていくことを心がけています。日本産業衛生学会および近畿地方会は学びを得られる大切な場所です。これからも学会員みなさまと交流を広げながら得られた知識や経験を会社にフィードバックしていきたいと考えます。

参加募集！第11回研究室訪問のご案内(初の精神科教室訪問です！)

日本産業衛生学会 近畿地方会 若手活性化プロジェクト



井上教授からのメッセージ

内容の一部(仮)

- 1) 神経精神医学教室のご紹介～産業保健との交わり～
教授 井上 幸紀 先生
 - 2) うつ病と就労
講師 出口 裕彦 先生
 - 3) ストレスチェックと職業性ストレス
准教授 岩崎 進一 先生
- * 講義終了後、交流時間として30分程度

今や、産業保健職ではメンタルヘルス対応は業務のうちの多くを占めるようになってきました。精神医学の領域は、うつ病、双極性障害、不安障害、統合失調症、児童思春期・老年期精神障害、アルコール依存症、ゲーム依存症、摂食障害など、極めて広く、同じ精神科でも、専門分野によって、診療の状況も変わってきます。井上先生は関西において、産業精神医学の第一人者として、有名でとても分かりやすいご講義と、定評のある先生です。

先生方自身も、企業において産業医や嘱託精神科医として日々、ご活躍されておられます。

今年度から若手活性化プロジェクトでは、産業保健のビギナーの方にも興味を持っていただける内容をお届けする予定です。一方、産業保健のエキスパートの方にもご満足いただけるよう交流時間を30分も取って頂きました。職場では、これまで通り、もちろん古典的なうつ病も見受けられますが、職場環境に適応が難しくなった気分障害や発達障害傾向を持ち合わせたメンタルヘルス不調も目立っています。また、嘱託精神科医のご助言と産業医の意見がミスマッチすることもあるかもしれません。井上先生より、興味深いお話がきけることでしょう！

参加費：無料

申し込み方法：学会ホームページをご参照ください

各先生の専門分野

- 井上教授 ・ 産業精神医学、精神疾患の生物学的研究、軽症うつ病
- 岩崎准教授 ・ 産業精神医学、神経症性障害、ストレスの生化学・生物学的研究
- 出口講師 ・ 産業精神医学、うつ病、双極性障害

予告！第12回研究室訪問のご案内

日時：2022年2月4日(金) 15:00～17:00
京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 国際保健学講座 社会疫学分野
近藤 尚己 教授
テーマ：詳細は未定ですが、教室の研究内容のご紹介と意見交換を行う予定です
会場： 京都大学 先端科学研究棟2階

文責：濱田 千雅

第31回 日本産業衛生学会全国協議会のご案内

～経済社会と健康：ポストコロナの産業衛生を考える～

第31回日本産業衛生学会全国協議会が三重県開催およびライブ配信開催、オンデマンド配信開催されます。8月31日より、参加登録開始しています。

【会期】2021年12月3日(金)～5日(日)

【早期参加登録期限】2021年10月31日

詳細は、学会HPでご確認ください。

<https://procomu.jp/sanei-zenkoku2021/index.html>

令和3年度・産業精神衛生研究会のご案内

テーマはアンケート希望のトップである
「パーソナリティ障害の対処を巡って」
です。



イラストのような言動の対処に苦慮する職場関係者は多いでしょう。この分野に詳しい下記のメンバーで行います。座長は富永なおみ産業医です。自由討議の時間をたっぷり取っていますから、様々な視点から意見交換をし、ヒントを掴んでいただければ嬉しいです。

**10月27日(水曜日) 午後6時半から9時前まで、
エル大阪南館5階**

座長：富永なおみ(読売テレビ 産業医)

演者：精神科医の立場から 夏目 誠
産業医の立場から 木村 隆(近畿健康管理センター 理事長)

産業看護職の立場から 藤吉 奈央子
(Harmony ~ Life & Work ~ 保健師)

参加費：学会員は1,000円です。多数の会員の参加を希望します。

【お申込み・お問合せ】

産業カウンセラー協会関西支部(担当：矢野)

TEL：06-4963-2357 FAX：06-4963-2358

メールアドレス：sanseiei@jica-kansai.jp

詳しくは地方会ホームページを参照してね

産業精神衛生研究会の新たな代表幹事は近畿健康管理センター理事長の木村 隆先生ですが、引継ぎの関係上、今年度は夏目 誠が代行します。

文責 夏目 誠

職業性筋骨格系障害研究会から共催イベントのご案内

近畿地方会職業性筋骨格系障害研究会事務局 北原 照代(滋賀医大・社会医学・衛生)

その1 「第25回作業関連性運動器障害研究会」 (日本産業衛生学会 作業関連性運動器障害研究会)

【日時】 2021年11月13日(土) 13:30～17:00
(オンライン形式)

【プログラム】

- 1) 特別講演1「日本における職業性腰痛の疫学～国民生活基礎調査匿名データより～」富岡 公子(奈良県立医科大学)
- 2) 特別講演2「手作業による重量物取扱いに関する国際規格ISO 11228-1の改訂とその概要」菅間 敦(労働安全衛生総合研究所)
- 3) 一般演題発表
(一般演題のエントリーメット：10月15日)
- 4) オンライン交流会
参加申込は <https://www.wmsds.jp/> から

その2 「産業医慢性痛セミナー」

(令和3年度厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業—近畿地区—) *日本医師会認定産業医制度 生涯研修会・専門 2.5単位申請中

【日時】 2021年11月14日(日) 10:00～12:30
(ハイブリッド形式)

①メイン会場：滋賀医科大学 臨床講義室3
定員70名

②中継会場：大阪府保険医協同組合会館5階
M & Dホール 定員50名

③オンライン参加(単位取得は不可)

【プログラム】

- 1) 「令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業—近畿地区—産業医との連携推進に向けて～」福井 聖(滋賀医科大学 学際的痛み治療センター)
- 2) 「作業関連性運動器障害に対する外来型個別集学的治療の成果から見えること」久郷 真人(滋賀医科大学 学際的痛み治療センター)
- 3) 「就労復帰支援として身体・心理教育アプローチ(ペインキャンプ)の成果から見えること」井上 真輔(愛知医科大学 学際的痛みセンター)
- 4) 「産業保健現場での継続的・体系的な慢性痛予防eラーニングプログラムについて」舟久保 恵美(内田洋行健康保険組合)

参加申込は <http://painkinki.html.xdomain.jp/> から

産業看護部会 新部長挨拶



会員の皆様、いつも産業看護部会活動にご支援いただきありがとうございます。

2021年度より部会長を務めさせていただきます鈴木純子です。

まだ皆さんに直接お会いしてご挨拶する機会がなくとも残念です。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大で世の中はもちろん、産業保健業務も大きく変わりました。突然、国から「新型コロナワクチンの職場接種推進」が示され、戸惑いながら対応を進めたところで、また突然ワクチン不足で一時中止となったり、健康診断後の事後面談や健康相談もWeb面談になったり、衛生委員会もリモート参加というスタイルも増えました。私たちのICTスキルは一気に向上したかもしれません。近年、法改正以外でこんなに産業保健に急激な変化をもたらす出来事があったでしょうか。

大変な時代になりましたが、どんな変化にも柔軟に対応できるのが私たち産業看護職の強みだと思っています。こんな時だからこそ、みんなで協力して乗り越えていきましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

産業看護部会からのお知らせ

○近畿産業看護部会定例研修会（オンライン開催）

第1回 シンポジウム：「コロナ禍での職域における生活習慣病対策」

日程：2021年10月23日 産業医部会合同研修会（近畿産衛学会開催時）

URL：https://jsok-kinki.jp/jsokkinki-61/program/
産業保健看護専門家制度研修 単位申請中

第2回 講演会：「化学物質による健康障害、対策、法的な背景－私の経験から－（仮題）」

日程：2022年1月22日予定（詳細決まり次第HPに掲載）

講師：柴田 英治 先生（四日市看護医療大学 学長）

懇談会：「今後の産業保健看護の展望と将来に向けた活動について」（仮題）

講師：五十嵐 千代 先生（日本産業衛生学会産業看護部会長）

○本部産業看護部会情報

専門家制度登録者向け「基礎研修」は今年度から受講方法を変更しました。（A・B共に受講可能）

- ・A・Bコースのカリキュラムを一部組替え、新カリキュラムに移行
- ・受講方法：eラーニング／Web会議ツール利用による配信（録画配信・ライブ配信）
- ・受講期間：2021年10月1日（金）～12月19日（日）（A・Bで受講期間異なる）

詳細は本部HPでご確認ください：
<http://sangyo-kango.org/wp/>

産業衛生技術部会からのお知らせ

2021年10月23日（土）開催予定の第61回近畿産業衛生学会がオンライン開催となりました。そのため、当日に実施予定であった2021年度産業衛生技術部会総会では実施方法の変更を余儀なくされ、現在、Zoomでのリモート会議を検討しています。日時につきまして決定次第メールにてお知らせします。部会員の皆様については、日本産業衛生学会のホームページの会員ログインから、プロフィール登録されているメールアドレスの確認をお願いいたします。

なお、総会では審議事項として（1）2022年度研修会について（テーマ、日時の決定）、報告事項として（1）活動報告（2020年度研修会の実施報告）、（2）会計報告、等の内容を予定しています。

引き続き、部会の活動にご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

近畿産業衛生技術部会長 長見 まき子

編集後記

COVID-19の蔓延は変異株の出現、ワクチンの供給不安定などもあり、期待に反した経過を辿っています。医療機関や保健所、自治体では感染者治療・療養対応が逼迫し、緊急事態宣言も延長、拡大しています。読者の皆様の事業場でも情報収集・発信、感染拡大予防対策への意見・助言、ワクチン職場接種など、懸命に対応されている事と思います。凡事徹

底を継続し、収束の一助となる様に努めて参りたいと思います。（谷池 正行）

編集委員（50音順）

井上 幸紀（担当理事） 清原 達也
谷池 正行 村田 理絵（当番編集長）